

研究テーマ

実施団体 香川県教育委員会 障害種の情報 肢体不自由

「全員活躍」をめざした体育授業

実践研究のねらい

aim

運動の得意不得意、障害の有無に関わらず、全ての児童が運動や自分の健康に対して前向きに取り組めるようにするために、体育学習の在り方について研究を深める。特に、主体的な学びを支える児童のモチベーションを高める環境づくり、児童が前向きになれる教師の仕掛けや支援の在り方を考え、実践する。

授業づくりの考え方

thinking

以下の視点から授業づくりを考える

- ①児童生徒が「何に困っているのか」を見取る
- ②「困っている原因」を考える
 - ・「人」が原因なのか？
 - ・「もの」が原因なのか？
 - ・「ルール」が原因なのか？
- ③困っている原因に合わせた体育授業を実践する
 - ・「人」の工夫(友達と学び合いができるようにペアやグループの配慮を行う)
 - ・「もの」の工夫(体育で使う用具の工夫をする)
 - ・「ルール」の工夫(ゲームのルールの工夫をする)

指導・支援の工夫

devise

単元

4年生：ボール運動(ベースボール型)

時数	1	2	3	4	5	6	7・8
学習活動	オリエンテーション	簡単なゲーム ・走塁の仕方を考える ・ルールづくり ・作戦づくり (打つ方向)	簡単なゲーム ・守備の仕方を考える ・ルールづくり ・作戦づくり (守備の位置)	簡単なゲーム ・中間ゲーム ・チームの課題把握	簡単なゲーム ・課題解決 ・兄弟チームで練習の成果を試す	簡単なゲーム ・課題解決 ・兄弟チームでできるようになったことを他のチームと試す	簡単なゲーム ・全員得点 ・全員守備

活動概要及び工夫点

「全員活躍」を合言葉にした体育授業を実践することにより、障害の有無に関わらず運動有能感の低い児童も前向きに取り組む体育学習を行えるよう、環境づくりや支援を行う。

『もの・ルールの工夫』

- ・バットの代わりに手型ラケットを使用することにより、車いすを利用している児童も安心して活動できる。
- ・ベースの代わりにコーンを使用したり、守備の際にフープに全員集合したらアウトにするルールとする。



手型ラケットでボールを打っている様子

活動概要及び工夫点

対象児童が「車いすに乗っているので、周りの友達が車いすに乗っている自分を見て、どのように思うのか不安になる」という授業者の見取りから、事前学習として、全校児童を対象とした車いすバスケットボール体験や車いすを利用している方の講話を聞くことにより、車いす利用に対する肯定的心情を育む場面を設定した。そして、車いすを利用している児童と共に体育活動をする際のルール作りの考え方を学んだ。

全校児童を対象にした理由は、運動会や全校で活動する体育活動の際にも、車いすを利用している児童のことを全校児童が理解する必要があるとの考えからである。

今後、ルールやものの工夫を児童が中心となって行うことで、障害の有無にかかわらず全ての児童が楽しめる運動会や学校体育活動を目指していく。



車いすバスケットボールの選手からレクチャーを受けている様子



車いす利用者の講話を全校生が拝聴している様子

成果と課題

results & tasks

成果

- ・車いすバスケットボール体験をした日を境に、体育活動に対して消極的であった対象児童に明らかな意識の変容が見られ、苦手意識の強いマラソン練習に対して意欲的に取り組み、休み時間に運動場を走る姿が昨年より多く見られた。
- ・周りの児童が対象児童と共に活動できるルールを考えることで、周りの児童と同じように体育の授業に参加することができた。
- ・対象児童が何に困っているかを見取り、「人、もの、ルール」を工夫することで、これまで同じように参加できなかった球技やマット運動も他の児童と共に活動することができた。
- ・対象児童は体育活動全般に対して積極的に取り組むようになり、友達と一緒に喜んだり笑顔で話し合ったりする場面が以前より大幅に増えた。
- ・全員が楽しむためのルール作りを子供たちと共にを行うことで、他の児童の対象児童との関わり方が大きく変わった。共に学ぶ体育授業づくりができた。

課題

- ・車いすの操作の関係上、転がっているボールをうまく捕球することができなかったため、捕球する補助具として網のようなものを用意したり、ガイドを付けてボールを取って優しく渡したりすることで、対象児童が積極的に守備にも関わることができるようになりたい。
- ・着替えや移動に時間がかかることから、体育授業の用具の準備や片付けを十分できないことがある。他の児童と同じように準備や片付けなどに参加できるようにし、所属感をさらに高められるようにしていきたい。